

研究の概要

20 25 年 9 月 17 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	新規精子調整デバイスを用いた精子選別における有用性の検討
代表研究者 (所属・氏名)：	中岡義晴
研究の目的：	体外受精において精子選別は一般的に密度勾配遠心法(DGC)が用いられるが、遠心処理による精子への物理的ダメージ(生存精子の減少、形態の損傷、活性酸素の増加、DNA断片化等)が生じることで、受精とその後の胚発生への影響が懸念される。そこで主に膜構造を用いて形態と運動性の良好な精子を効率的に回収するZyMötや SwimCount Harvesterといった精子調整デバイスが新たに開発され、遠心処理を必要としない精子選別法の選択肢が広がった。 これまで体外受精においてDGC やZyMötを用いた精子選別を行ってきたが、新規精子調整デバイスであるSwimCount Harvesterを用いることで、従来のDGCやZyMötと比較して精子調整における物理的ダメージを低減することができるのか、また回収後の精子運動率や濃度に違いがあるかを検討する。
調査データ該当期間：	20 24 年 12 月 1 日 ~ 20 25 年 12 月 31 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	精液検査終了後または体外受精使用後の精液を用いる。SwimCount HarvesterとDGC、ZyMötそれぞれで処理した精液を、精子自動解析装置(SMAS)を用いて精子濃度、運動率を計測し、さらに各デバイスで調整後の精子のDNA断片化指数(DFI)を比較する。
個人情報の取り扱い：	研究に関する情報には別途、管理番号を与え、管理記録台帳の治療IDと照合しなければ情報が得られないようにする。患者情報はカルテにアクセスし、治療IDで照合しないと得られないため、2段階で保護する。
本研究の資金源 (利益相反)：	本研究で用いるSwimCount Harvesterはメッドテックパートナーズ株式会社より提供される。 利益相反なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6978-8824 生殖技術部門・中野達也
備考	